

— “実行/Implement” された水道建設 —  
国際ボランティア貯金寄附金(POSIVA)事業完了

「本当に水道ができるのですね！」会報 51 号で報告のように、住民が繰り返しその実施を確認していた水道建設事業が、3 月の竣工式をもって完了しました。今後の維持管理は住民代表 6 名からなる水利組合にゆだねられました。

過去 12 年間に HANDS が関わった簡易水道建設は今回を含めて大小 11 件ありますが、これほど住民の率直な安堵感・喜び・感激に出会った事例はなかったように思います。ゼネラルサントス市街地にほど近いため、選挙ごとに候補者がやってきて空約束が繰り返されたためかもしれません。それが今では 15 軒につき 1 つの共同水道・洗濯場ができ、その喜びもひとしおです。

最初のパイプが通水して 3 ヶ月たった 1 月末にはすべての工事が完了する予定でした。しかし乾季に入っても水量が落ちなかったため、スフォ村内の集落バルナブまで支線を延ばすことにしました。予定外の延伸工事で、現場で指揮をとるリコも住民も時には食事抜きだったそうです。

今後は長い乾季にも水が涸れないように、水源涵養林の保全が不可欠です。命の水の源、森林保全への関心を高めることも水利組合の役割です。



POSIVA 助成を示す看板の前に立つ現場責任者リコと  
モニター担当九島



本事業では 2 回の保健・衛生研修を含めました  
(スフォも入れて 46 名参加したフィタク研修。講師はジョジョ)

なお、本事業の保健・衛生研修参加者の反応は上々で、今後も CMIP エリア 8 つの拠点で継続実施の予定です(助成金申請中)。1 回目はサムラング。HANDS 水道支援第 1 号の村です。

POSIVA 水道事業のうち水槽・蛇口・支線工事費等は HANDS 資金(松尾基金)を充当いたしました。(山崎)

ブラクールの学力向上と職業教育教材整備事業

ひろしま・祈りの石国際教育交流財団助成



この事業の主たる目的はカレッジや専門学校に進めなくても、村であるいは町に出て経済的に自立できるように、ハイスクール卒業までに即戦力として役立つ職業教育を実施するというものです。週 1 回の技術家庭科 (TLE) 授業だけではならず週末や放課後にも行いました。

本事業実施に当たってはいくつか問題に直面しましたが、災い転じて福の事例もありました。大型スチール製本棚購入が道路事情でキャンセルとなったことです。深いぬかるみでスチール製書棚のトラック搬入見通しが立たず、木工実習講師の村の大工ジョエルさん手作りの書棚が代替品として納品されました。新しい教科書が収められたどっしりした木製本棚はスチール製より立派です。技術があればお金がなくても家具を作れる、もちろん売ればお金になる。いい刺激になったようです。本事業で購入の飽は 2 丁。生徒たちは順番に板を削る実習に励みました (写真)

今年度実施が決まっているプロジェクト

\*ダグマ山系クハン村のアグロフォレストリー  
15ha (イオン環境財団)

\*職業教育の継続と就学前教育支援(ブラクール)  
(ひろしま・祈りの石国際教育交流財団)

以下 3 件は WE21 ジャパン各地域店舗の支援

- ①PIHS モロの村の代替医療推進と保健ボランティア研修
- ②CMIP ボルルール地区における育苗と農業技術研修
- ③CMIP 卒業生教師国家試験受験支援 (詳細 P3)